



宝慶寺
ぶきょうじ

編集発行
☎912-0434
大野市宝慶寺1-2
宝慶寺奉賛会事務局
振替 00720-2-11671
TEL 0779-65-8833
FAX 0779-65-8103
Eメール hokyoji@happytown.ocn.ne.jp

海蔵山 龍雲寺四十四世 散木 眞承大和尚 晋山結制法要 平成28年5月15日

晋山結制 法要圓成に感謝

島根県浜田市
龍雲寺四十四世
野原 眞承

平成十年十二月下旬、何も知らない若造は、「出家して必ずや佛道を成就せん」そう誓って雪降る永平寺門前町に到着。寝袋一つ持って山門へと向かう道中「大恩ある恩師、父母、友人達に心から感謝しながらも、御縁を全て一度は完全に離れ去れずして出家修行に如かず…」独り歩きながら自然と涙が溢れました。あまりに無力な自分…。ただその瞬間、特別傲慢な思いも卑下する思いも無く、これから何が始まるのだろうか？ 緊張感や悲壮感は昇華され「もう御任せしよう、只、歩ませて頂こう」と、山門に着く頃には不安な様な安心な様な、明るい清々しい不思議な心境で、しかし、本気で独り出家志願する自己があり

是非とも初心忘るべからず。時々の初心忘るべからず。老後の初心忘るべからず。
(世阿弥「花鏡」)
訳 仏道に対する初発心を肝に銘じ、初めも、中も、終わりもよい正法を生々々々保持して、やり抜くこと。

ました。その時、輪廻転生とは、本当は肉体が死なずとも「覚悟次第」で、いつでも出来るものと、ふと気がかされました。そして、山門で出家入門を只管に願う未熟な若造の心を、永平寺元副監院山内光昭老師が静かに受け止めて下さり、宝慶寺をご紹介下さいました。その後その足で向かい入山。四月八日に出家得度。今日まで寂圓禪師の御膝元にて本師の御指導のもと、御法縁を頂いた多くの皆様に育てて頂きました。あれから十七年、御蔭様でこの度、時節因縁成り、島根県浜田市海蔵山龍雲寺(https://kyuin.jp/)の法燈を継承すべく晋山結制法要を無事修行させて頂きました。

結局、吉凶禍福生死輪廻の如何なる時も、広大無辺なる御佛の御慈悲に導かれ、生かされる不垢不浄。不増不減。不生不滅なる命。この不思議に、只只、合掌し平伏して礼拝する他に術を知りません。悠久の時から観れば、ほんの僅か一瞬に過ぎないこの世の四十四世の御縁ではあります。御佛の御加護無き一瞬はそもそもこの世に生じ得ません。これから御法縁を頂く皆様と共に祈り共に坐り、吉凶禍福「すべてよし」と、心底から感謝の響く大人となれますように、また、龍雲寺道場で、道元禪師、瑩山禪師、寂圓禪師が御伝え下さいました正法眼蔵涅槃妙心、苦界にあつて眞の安

心を獲得する大安楽の法門「只管打坐」の実践を通して宏大なる上慈恩に報恩させて頂けますように、世界の法友方と共に、日目の勤行を以て拙を補い、無上圓滿なる佛道を、縁有る皆様にお伝えさせて頂けますよう、更なる精進に励みます。

佛縁に、感謝。至禱。至禱

新命眞承方丈の 晋山開堂 初転法輪を祝賀す

島根県浜田市観音寺住職
龍雲寺西堂

穆清 道久

薦福發心尊出家
正傳眞海相承嘉
龍雲結夏安居坐
願度衆生來喫茶

越前寂圓禪師開創の薦福山宝慶寺にて、一大事因縁あり発心修道す。有難き出家得度を尊ぶ。田中眞海堂長老師に面接随待すること幾多年。室内に入り正法正伝し、素晴らしき嫡々相承を嘉す。今日縁契うて石見海蔵山龍雲寺に晋山開堂し、夏安居を厳修す。ひねもす只管打坐を行持す。世界の一切衆生を濟度せんと發願利生す。どうぞ、皆さんお出なされ。

お茶、一服召し上げ。

冬制中を終えて



私は、平成廿七年の冬制中の首座に任命されました。毎日、右往左往しておりました。山内の先輩方に御指導を頂きながらも、無事にやり遂げる事ができました。

この冬制中は、十一月十五日から始まりました。十一月の最後の行事は、「三千礼拝行」と「首座法戦式」でした。「三千礼拝行」は三日間、一日千拝のペースでお拝をする行です。初めは体の調子が良かったのですが、二日目には膝が、三日目には喉・肘・関節・足・腰

が痛くなり、満身創痍でした。三日目の午前中にこの行は終了し、午後に首座法戦式がありました。礼拝の後の法堂は、静寂で凜とした空気で満ち溢れていました。気付くと、自分の手が少し震えていました。このような中で、首座法戦式を終えることができました。

法戦式の後、山内の重要な仕事等を段取って指示していかねければならない状況となり、少し困惑しました。しかし、首座を拝命した時、「住職という立場の大変さが少しずつ分かってくるから、精進しなさい」という堂長老の言葉を噛み締めて九十日間、無事にやり遂げることができました。今年の冬は暖冬で、比較的に雪が少なかったです。しかし、前年よりも寒く感じました。何かと大変なこともありましたが、この冬制中を通して自分自身が大きく成長できたような気がしています。

(Y・I)

眼蔵会

『正法眼蔵』 諸法実相巻

期日 平成二十八年六月二十日〜二十四日(午前迄)
 ※二十日午前には開講式があります。
 二十四日の講義終了後、引き続き閉講式

講師 祇萬老師

第八十九回

大道会摂心

平成二十八年四月三十日(土)から五月五日(木)にかけて、大道会摂心が行われました(四日(水)には、独参がありました)。今回は山内を含めて、二十名弱の方が参加しました。この中には十年、三十年とこの摂心に参加している方もいました。

参加者からは、「誰にも迷惑をかけず、豊半豊あればよく、自分のしたい事が自在にできるようになりました。」

「いつの間にか坐禅が苦しいものから心地よいものになり、生

夕二才保険参禅研修

宝昌 博章



我々ビジネススマンの最大スマンの最大の悩みは、人間関係だと思います。社内

の上司、同僚、部下、そして取引先と色々な付き合いがある。どこかで「できる人と思われたい」「いい人と思われたい」「本来の自分よりも相手に良く思われたい」という気持ちが出てきます。

この参禅研修に参加をさせていただきまして、自分自身で、以上でも以下でもなくて良いの



活の中になくはならぬものになつていました。」という感想をいただきました。

だ、と実感することができました。それは坐ること、自分の心と向き合う時間(一人になれる時間)が持てたからなのかもしれませぬ。

自分を見つめた結果、自分を正しく理解し、理解されるためにはどうしたらよいかを考えるようになりました。そして、目の前にある今を大切に生きようと思えました。

気のせいかもしれませんが、二日目の朝のお粥が光かがやいていました。それを口にした瞬間、とても愛おしく感じました。短い期間でしたが、大切な時間を共有させていただきました。堂長老様、雲水の方々、心よりお礼申し上げます。 合掌

薦福林

心理療法の主流である傾聴法の始祖O・ロジャーズは、生涯の後期に「プレゼンス」という概念を提唱しました。「変性意識状態にあるとき、ただそこに在るだけで相手に癒しを与えられる」という意味です。ロジャーズは、経験を積むほどに、表面的な技法から離れて、心のありようこそが対人援助の本質であると確信するに至ったのでしょうか。いくつかの文脈からすると、この「変性意識状態」とは「三昧」に類似するもののようなのです。となると、三昧の功德の一端が窺えるのではないかと思います。

先日、ある先輩僧侶と話をしていたとき、「真面目な坊さんほど、他人が求める僧侶像から離れていくのはなぜだろうか」とつぶやいておられました。あとになって気になった。あとになってですが、「毫釐も差あれば天地懸隔」ということかとも想像しています。

世俗まみれの我が身ではあります。安居中、しばしばご教示いただいた「正しい三昧」を忘れずに勤めていきたいと思えます。

K・A

夏期集中基礎講義のご案内

◇期 日 7月16日(土)午後～20日(水) 正午

◇講師及びその内容

- ・山部能宜先生（早稲田大学文学学術院教授）
坐禅三昧経を読む⑥
 - ・荒牧典俊先生（京都大学名誉教授）
唐末期における文学と坐禅
 - ・伊藤秀真先生（愛知学院大学非常勤講師・当山講師）
宝慶寺の歴住世代
 - ・ブライアン・ヴィクトリア良潤先生（当山特任講師）
不殺生戒の本質について
- ◇日 程 16日(土)午後～17日(日)午前：山部先生
17日(日)午後～18日(月)午前：荒牧先生
18日(月)午後～19日(火)午前：伊藤先生
19日(火)午後～20日(水)午前：ブライアン先生

- 参加ご希望の方は、必ずご連絡下さい。
- 午前・午後とも各2講座の予定です。
- 連絡先 〒912-0434 福井県大野市宝慶寺1-2
宝慶寺専門僧堂 TEL 0779-65-8833/FAX 0779-65-8103

銀笠峯山開き

五月七日、山開きにあたり、宝慶寺の雲水二名と県内外の希望者十三名で拝登しました。

雨の中、山道はぬかるんでいて滑りやすく、大丈夫なのかと思いががら登りました。

山頂では、法要を執り行いました。
(Y・I)



おりました。その時、観音様が現れ、寂圓禪師様の下へと導いて下さいました。今年四月に上山したばかりの暫到です。

右も左も分からないどころか、前も後ろも分かりません。宝慶寺の美しい自然でさえも、目を素通りしてしまい、先輩方には迷惑ばかりお掛けしています。

悲しい時も、南無観世音菩薩。寂しい時も、南無観世音菩薩。寂しい時も、南無観世音菩薩。

たとえ危の如く遅くとも、観世音菩薩様の御心を想い、修し行じていきます。



新到紹介

京都西光寺徒弟

石野哲閑士

生きていくことに疲れ果て、あてもなく彷徨って、

「寛永四年、松山殊榮和尚が住持している。光徳寺には、殊榮和尚以前の史料が遺っていない。依って、この寺が創建された経緯について。」

宝慶寺の末寺をめぐる③

銀笠峯の山麓にある木本の光徳寺は、寛永年間の初、貞庵慶甫和尚によって開創されたと伝えられている。また、芦田城を築いた芦田光徳の後裔、加藤宗月（依田康勝）が造営に携わったとも言われている。

龍田山光徳寺 (大野市木本一八一八)

では詳らかでない。時期は不詳だが、木本藩主であった松平直良は慶隆和尚のために、寺地・山林を寄進している。そして慶隆和尚は（一説には万治二年十月）、この寺に入り遁世したとされる。（講師）

宝慶寺世代との関係（カッコ内の数字は宝慶寺の世代数）
開山徳巖慶隆(24)



光徳寺法堂



道路問題のその後②

宝慶寺は、宗門随一の深山幽谷にある修行道場です。坐禅を修行の中心としていますが、大型バスが通れるような道路がなくては、寺の機能が成り立たない時代となってきました。

ところで、平成十六年の福井豪雨では、宝慶寺の裏山を通る道路が土砂流によって崩壊するなど、甚大な被害に遭

ったことは記憶に新しいことです。

大型バスだけではなく災害に備えるためにも、緊急車両が通れるような道路を新設する必要があります。

このようことから宝慶寺の下では、新たに道路を敷設するための工事が進められています。

現在、この工事によって荒れた山肌をどのようにして再生し護っていくべきか、ということが問題となつています。これについては植林事業を行って、山全体の保全をしていくべきであると考えています。

是非とも、多くの皆様方に宝慶寺へと足を運んでいただき、宝慶寺の素晴らしい環境の下で御一緒に坐禅を体験していただきたいと思います。

E・K

宝慶寺奉賛会総会のご案内

謹啓 万緑の候 皆様にはご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は当会発展にご協力賜り厚くお礼申し上げます。

さて、今年も下記により「第27回総会」を開催致します。また、引き続き下記のとおり、「特別法話」を予定しております。万障お繰り合わせの上ご参加くださいますようご案内申し上げます。 謹白

記

- 1. と き 平成28年 5月29日(日) 午後1時より
- 2. と ころ 大野市結とぴあ (多田記念大野有終会館)
- 3. 議 題 (1)平成27年度事業報告・決算報告
(2)平成28年度事業計画案・予算案審議
(3)その他
- 4. 特別法話 午後1時30分から

演 題 「つなぐこころ」

講 師 伊藤 正賢 師 (高知県浄貞寺住職)
(曹洞宗特派布教師)



宝慶寺奉賛会ご加入のお願い

宝慶寺は、銀盃峰の山麓の標高500mの豪雪地にあり、道元禅師を慕い中国(宋)から来朝された寂円禅師が開創された750余年の伝統を今に伝える修行の寺であります。山奥の浄域は自然と共に呼吸する最高の坐禅道場であります。更に末永く、この伝統を維持していくためには、有縁の方々の御芳志に頼らなければなりません。つきましては、趣旨にご賛同の方はぜひ、奉賛会にご加入頂き有形無形のご支援を伏してお願ひ申し上げます。

会費(年額) 個人会費 3,000円 法人会費 10,000円
特別会費 30,000円

※尚、既に会員等のご協力を頂いている方は、同封の振替用紙にて、ご協賛のほどよろしくお願ひ申し上げます。

山内日鑑より

- 〔二月〕 寒行托鉢(〜二十四日)
- 〔二月〕 涅槃会撰心(〜七日)
- 十五日 解制土地堂念誦・涅槃会解制の拜
- 十六日 人権学習会
- 二十九日 人権学習会
- 〔三月〕

- 十日 大野市地藏庵様 (通夜、十一日葬儀)
- 〔四月〕 一日 タニオ保険様(七名)参禅 (〜三日)
- 三日 日曜参禅会
- 八日 暫到上山
- 二十一日 人権学習会
- 二十四日 雪囲い外し
- 二十八日 兵庫県善勝寺様先住忌 (一周忌)

- 三十日 大道会撰心(〜五月五日)
- 〔五月〕 五日 石川県龍護寺様 (四十九名) 団参
- 七日 銀杏山開き
- 八日 日曜参禅会
- 十二日 第二教区会
- 十四日 鳥根県浜田龍雲寺様 (眞承師) 晋山・結制 (〜十五日)
- 二十九日 奉賛会総会

主な山内予定行持

- 〔六月〕 五日 日曜参禅会
- 九日 愛知県西光寺様 (四十名) 団参
- 二十日 眼蔵会(〜二十四日)
- 〔七月〕 一日 上庄保育園様(十七名) 団参
- 三日 日曜参禅会
- 十五日 大野市慰霊祭
- 十六日 夏期集中講義(〜二十日)

三千礼修行募集

平成二十八年 十月二十日(日)〜二十三日(水) 参加者は十九日(土)開枕までに集合。



シロ (三代目)

参拝者の声

・亡き父が永平寺で修行した僧侶でした。お寺巡りを趣味にして、あっちこっち回っています。越前大野城に行つて、宝慶寺の事を知り、本日伺いました。水の音、大木の中の静けさ、大変に良きお寺を見せて頂きました。(性別不詳)
・私の兄は一才で病死しましたが、兄の鯉のぼりの布で、お地藏様の帽子を作ってきました。カーブの所に立たれてお地藏様がかぶって下さると良いと思いました。(女性)

日曜参禅会のお知らせ

宝慶寺専門僧堂では、一般の方を対象とした日曜参禅会を毎月、第一日曜朝十時から行っています。初心者の方に対しても懇切丁寧に指導をいたしますので、興味のある方は是非、ご参加下さい。ご不明な点は、宝慶寺までお尋ね下さい。

安居者募集のお知らせ

永平寺につぐ曹洞第二の道場・宝慶寺専門僧堂では、坐禅と修道法を中心にした修行を行っています。安居は随時、受付けております。ご不明な点は、宝慶寺までお尋ね下さい。

〒九二一〇四三四 福井県大野市宝慶寺一―二 電話〇七七九(六五)八八三三 FAX〇七七九(六五)八一〇三



今、宝慶寺は芽吹紅葉の季節を終え、日増に木々の新緑が深く営なまれ、僧堂では永遠の生命に順ずるが如く、朝な夕なに坐禅が行じられています。永久になくならない生命の息吹に接した時、自らを降参せざるを得ない。一方では時の流れに従いながらも、やはり人間も大自然という体によって我ま、やらせてもらっている以上、この体を大自然のもとに返す必要がある様に思えてなりません。(高)